



TITLE:

あとがき

AUTHOR(S):

---

CITATION:

あとがき. 物性研究 1965, 4(6): A25-A25

ISSUE DATE:

1965-09-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/85788>

RIGHT:

あ　と　が　き

8月4～6日の3日間、猛暑の中で、上記の研究会が開かれた。生体関係の研究会も今まで異つた分野で仕事をしていた人達の間で充分言葉が通じ合うようになった感じで、連日30人近い人が集つて随分熱のこもつた会合になつた。前半は溶液中での生体高分子の構造、それに相互作用をとくに溶媒効果を重視した見地で議論された。後半は電子論的立場からの生体高分子の特殊性が議論され、複雑な系ではあれ色々の立場から一步一步前進しつつあることが感じられた。

研究会の報告として何か問題点をしぼつて、将来の見通しとか、はつきりした協同研究の線を打ち出すような形式が望ましいが、この分野の仕事は生化学、物理化学、物理学、といくつかの分野の人の協力の上で進む学問であるためにまだ完全にまとまつた形にはなつていないが、近い将来にはこの基研の研究会という場の中からそうした新しい研究母体の芽が育つていく可能性が十分感じとられ、大いに有意義であつた。

猛暑の中を積極的に参加して下さい、研究会を有意義なものにして戴いた諸先生方にこの誌上をかりて厚く御礼申し上げます。 (寺 本)